

農業と公害対策のグローバルイゼーション (1)

練馬区 板橋光紀

中国、山東省青島（チンタオ）へ出かけた時のことだった。山東半島のほぼ中央に位置する平度と呼ぶ小さな町で、韓国から進出した旧友が従業員 750 人の小さな縫製工場をまわしており、私は日本向けの OEM 生産を依頼している。今回はテストランによる製品の品質検査と、遅れ気味なプロジェクトの日程表組み直しが目的であった。

平度の南に隣接する青島市の南端部分は、かつてドイツに割譲され、長い間多くのドイツ人が住みついていた関係で、海岸近くや、小高い丘陵地帯には今もなお多くのドイツ風西洋館が建ち並んでおり、一見ドイツかスイスへ来ているかのような錯覚に陥る美しい町だ。「青島ビール」は、この地で当時のドイツ人達が作り出したもので、中国に居ながらドイツ風味のビールが味わえるのがうれしい。

韓国が中国と国交を正常化して以来、過去10年の間に、ここ山東省へ進出して来た企業は1000軒を越え、韓国人駐在員は1万人に達するという。工場に続いて進出して来た高級朝鮮料理店や、カラオケクラブも林立しており、毎晩繁華街は韓国人客でにぎわい、福建省の廈門（アモイ）で、台湾人が大手を振って歩いているように、青島では韓国人が幅をきかせている。日本人にはめったに出会わない。

この朝鮮料理がソウルの味にヒケを取らない程オリジナルであることと、クラブのホステスがどの店もほとんどハングル語に達者な朝鮮人で占められているのはワケがある。東北の吉林省や遼寧省等には、大昔から朝鮮族が住んではいたが、日本の朝鮮併合時代に日本政府の政策で、日本人の満州への移民を推進すると同時に、多くの朝鮮人が半強制的に満州へ入植させられた歴史がある。現在旧満州に住んでいる朝鮮族は 250万人にのぼると云われている。そこへ最近北朝鮮から命からがら越境して来た人々が加わり、朝鮮族人口は益々増える傾向にある。山東半島での韓国企業の繁栄振りを伝え聞いて多くの朝鮮人が黄海沿岸を南下して山東省へ入り、北京語とハングルの両方を使える人は、韓国企業の通訳や運転手になり、ハングルしか出来ない人でも駐在員宅のメイドや料亭の調理人、クラブのホステス等の職につけるからなのだ。外国人でもハングル語さえ出来れば、北朝鮮の窮状等を生々しく聞くことも出来る。

工場の食堂で昼食を済ませ、韓国人工場長らと雑談しているところへ、市役所の役人が二人、人民解放軍の将校一名を伴って入って来た。公文書を示して「工場の操業を止めよ、工員 700人を農作業に徵用する」との命令だ。表通りには大型軍用トラックが20台、運転席には迷彩服の兵士が乗って待機している。私を含めた工場の幹部一同は、怒り心頭に達し、激しい押し問答となったが「上からの指図だから」「責任者にかけてくれ」でラチがあかない。役所へ電話をかけさせたところ、「この工場の 700人は、東隣の威海市方面の農家へ、数人づつ配属

される。党（共産党）の指導による決定だから、文句は党の方へ向けて欲しい」とかわしてくる。

700人の乗ったトラックを見送ってから、直ちに工場の幹部二名を伴って、市の共産党委員会へ行くことにした。高速道路を飛ばせば30分足らずで着く筈であったが、この日は1時間以上かかってしまった。この辺の高速道路は、完成して間もない、片側2車線、車はめったに通らない。前日ここを通った時には何も無かったのに、今日になったら走行車線と路肩に脱穀した麦の穂が敷きつめられてある。

刈り入れを間近にひかえた2日前に、大きな台風が来て麦が倒れ、あわてて刈り取った麦を天日で干しているのだ。車に踏まれまいと、人の頭ほどもある石ころや、太い木の枝が麦のまわりに置いてありハズミで踏んづけた木の枝等が、唯一車が通れる追越車線へもころがり出ている為に、スピードが出せなかったせいである。

この辺りの田園は、360度見渡す限りが地平線で、すべて麦畑。確かに麦はことごとく倒れ、穂先が地面についてしまっているものも多い。畑のあちこちに、農夫と見られる人々に混じって、ジーパン姿の若い人々の作業しているのが見える。当局が、我が工場の 700人にもこれをやらせようという算段であることは、すぐに察しがついた。

それにしても、事前に了解を取るでもなく、いきなり20台のトラックを引っ張って来て、700人もゴッソリ連れ去るとはけしからん。高速道路に麦を干す許可を出したのも「共産党の指導」であるに違いない。同乗の工場長は、不機嫌な私の顔を見て心配そうに「我々は今後も長くこの土地で仕事を続けなければならぬわけだから、なるべく穏便に頼みますよ」を繰り返すが、私は無言で通した。着いたらいきなりわめきちらして、社会主義の欠点から、資本主義の競争原理の何たるかについてまで聞かせてやるつもりで、車中では、その理論武装に集中していたからだ。

しかし、乗り込んでみると、委員会事務所には事務の女の子二名が留守番しているだけで、黨員は一人も居ない。よく考えてみれば、真昼間に黨員が居る筈がなく、当方も冷静さを欠いていたようだ。中国では、北京に居る一部のトップクラスを除いて、「共産黨員」という名の職業は無い。とりわけ地方では、黨員はいずれも、官僚や教師であるとか、工場労働者とか農民であったり、各自がちゃんとした職業を持っており、「黨員」というのは職場や地域又は団体等の単位で選ばれたリーダーが、更に厳選され、中央から任命されたエリートにのみ付けられる一種のタイトル、議員バッジみたいなものと考えてよい。700人を早く返してくれるようメモを書き、名刺を置いて帰って来た。感心にもその夜遅く、黨員2名が私の宿を訪ねて来た。相手が日本人と聞いて説得役には、英語の達者なこの2名が選ばれて来たという。
(次号に続く)